



Wood Deck

特定非営利活動法人
ウッドデッキ

アニュアルレポート 2025

2026年5月

目次

1. ビジョン -----	p.2
2. 2025メンバー -----	p.3
3. 事業・管理運営報告	
総会の実施・報告 -----	p.7
ホームページでの発信 -----	p.8
ウッドデッキ便り -----	p.9
シンポジウム2025の企画・実施・報告 -----	p.11
中高生との哲学対話 -----	p.16
若手科学者のためのオーラル・ヒストリー デジタルアーカイブ -----	p.18
ウッドデッキ賞授賞 -----	p.20
企業の協賛・エコシステム構築 -----	p.21
規程類の策定 -----	p.22
4. 会議報告 -----	p.23
5. 収支報告 -----	p.25



1. ビジョン

今、日本社会が直面している課題は山のようにあり、
それらは時代の転換点特有のものばかりです。

これからは、地球環境を守り、今あるものを大切に、
人々が幸せに生きていくための新しい方法が求められます。

そこには、新しい学際的で総合的な科学の力、
社会の課題を当事者として受け止める科学者の力が必要です。
変化を起こすのは、未来に責任を持つ若い科学者です。

若い科学者が様々な世代の科学者や市民と語り合い、
新たな未来への道筋をつくるために、
私たちWood Deck (ウッドデッキ)は多くの人々が安心して自由に、
そして科学的に議論する場を提供します。

2. 2025メンバー

代表理事
渡辺美代子



理事
濱口道成



理事
山極壽一



理事
CASSIM Monte



理事
WIECZOREK Iris



監事
秋山咲恵



事務局ディレクター
辻明子



動画制作ディレクター
安田仁奈



企画広報ディレクター
シンポジウムディレクター
石塚真由美



動画制作マネージャー
高瀬堅吉



企画広報マネージャー
相京祐飛



シンポジウムマネージャー
井関祥子



企画広報マネージャー
鹿野豊



シンポジウムマネージャー
森田純恵



プロジェクトマネージャー
小浦節子



プロジェクトマネージャー
近藤誠一



プロジェクトマネージャー
寺本華奈江



プロジェクトマネージャー
塩田佳代子



プロジェクトマネージャー
小野悠



プロジェクトマネージャー
山内太郎

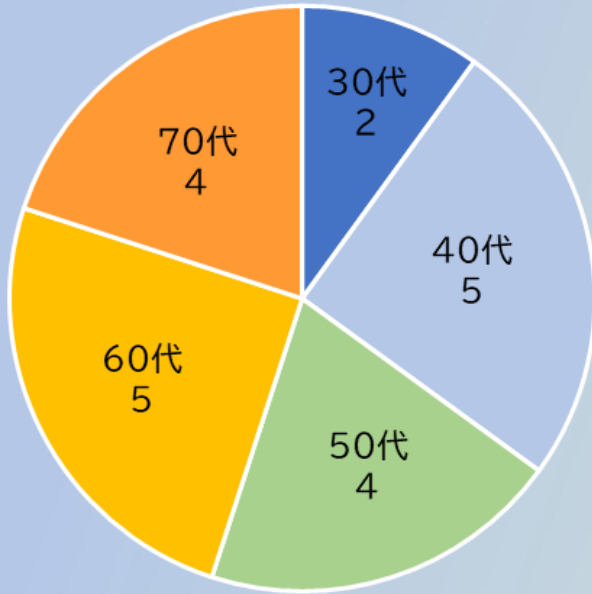


賛助会員
住友重機械工業（株）

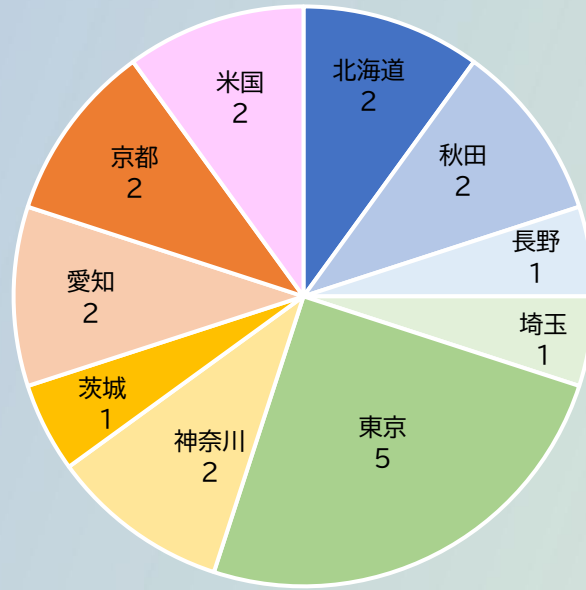


メンバーの多様性

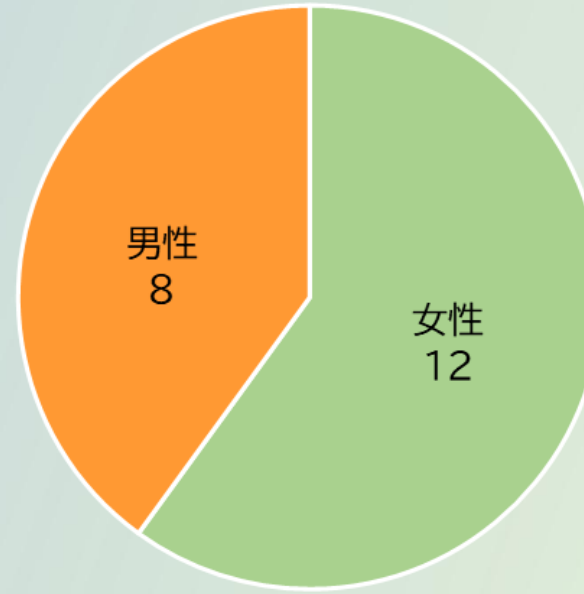
想定年代



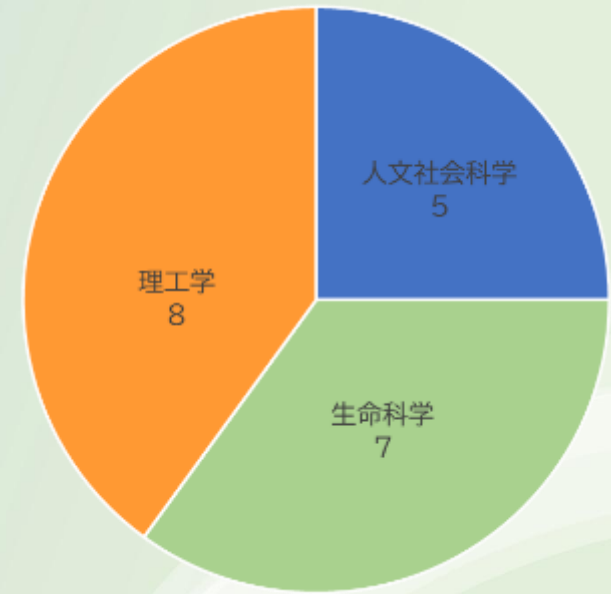
居住地



性別



専門分野



3. 事業・管理運営報告

総会の実施・報告

2025年5月22日（木） 15:00-17:00 に日本大学会館202会議室で総会を実施

19名の参加（実参加8名、オンライン参加7名、委任状4名）で議論

第1号議案 メンバー自己紹介、議長の選任

第2号議案 2024 年度活動報告

第3号議案 2025年度活動計画

第4号議案 意見交換

上記を審議し、承認

その結果をホームページで公開



ホームページでの発信

企画広報マネージャーが随時ウッドデッキの最新情報をHPで公開

ウッドデッキ賞授賞式の報告

シンポジウム2025の企画紹介・参加者募集、会員コメント紹介、事後報告

NPO法人ウッドデッキ×立命館慶祥中高対話会—中高生とシニア研究者の対話企画—の企画紹介、事後報告

若手研究者のためのオーラルヒストリーデジタルアーカイブ公開

総会・理事会等の会議資料公開

新規規程の公開

スポンサーの公開

閲覧者数 913

(2022年度624, 2023年度1,185, 2024年度1,105)

アクセス数(ページビュー) 3,968

(2022年度3,359, 2023年度5,764, 2024年度5,332)

2024年度から減少傾向

新規訪問者
PC閲覧が多数

新規訪問者 vs 常連訪問者



デバイス別セッション



シンポジウム前後に集中



ウッドデッキ便り

新たに2025年7月より、ほぼ毎月メンバーのメッセージを関係者約400人に配信

2025年7月	渡辺美代子	将来を考える
2025年8月	山極壽一	若い世代の関心と期待
2025年9月	濱口道成	若い世代の孤独と独立への勝ち筋
2025年10月	石塚真由美	シンポジウムのお知らせ
2025年11月	渡辺美代子	One Healthシンポジウムと中高生との対話会
2025年12月	井関祥子	留学と国際交流
2026年2月	寺本華奈江	分析化学は良いよ
2026年3月	秋山咲恵	『ウッドデッキのダイバーシティ担当』

メッセージと写真を配信

2025年8月

若い世代の関心と期待

山極壽一（総合地球環境学研究所）

私はこれまで40年以上にわたり日本（鹿児島県屋久島）とアフリカ（コンゴ民主共和国カフジ・ビエガ国立公園）で人と自然の共生を目指す活動をしてきました（写真）。その経験を生かして、今は文化と自然の複合的関係を解き明かし、環境問題を解決に導く研究を実施しています。ウッドデッキでは、これまでに世界の若い世代と付き合ってきた経験を基にして、若い世代の関心と期待がどこにあるのかについて解き明かし、その実現に向けて協力したいと思っています。

今回の参議院選挙における10～30代の投票率はいずれも30～40%台で、40代以上の50%を超える投票率を下回りました。以前から若者は政治に関心がないと言われてきましたが、投票率にもそれが顕著に示されているようです。ではいったいなぜ政治に関心が向かないのか。

私はこのところ地方を回って若い世代と話をすることが多く、その度に彼らの関心がどこにあるかを探ってきました。今、地方で活躍している若い世代は一律に「政治に期待して



2025年12月

留学と国際交流

井関祥子

現在、若い世代が国外に目を向けない、留学をしない、との問題が指摘されています。2025年初頭に、日本人全体でのパスポート保有率が約17.5%であることが報道されました。2024年に新たに発行されたパスポートの半分は、30歳未満の若者層によって取得されたものだそうですが、年間の発行数はコロナ禍前の2019年の水準に戻っていないとのこと。また、他国のパスポートの保有率は、韓国で4割、台湾で6割であるとのこと。ここ3年ほどの円安傾向も影響しているとはいえ、若い世代だけではなく国外への興味が全体的に薄れているのかもしれない。

私は大学で国際交流に携わってきました。最近、ある海外の大学と、大学院生および博士課程を修了した、若手研究者を半年から1年ほど派遣し合って研究を発展させてもらいましょうとのことになりました。この期間は、お互い大学として、受け入れる若手研究者から、授業料や大学設備使用料などを徴収せずにす



2026年3月

『ウッドデッキのダイバーシティ担当』

秋山咲恵

こんにちは。ウッドデッキで監事を務めております秋山咲恵です。

私はアカデミアではなくビジネスの世界でキャリアを重ねてきた異邦人的存在ですが、ウッドデッキのダイバーシティ担当としての存在意義を感じています。

私自身、大学を卒業する年が日本における男女雇用機会均等法改正の施行にあたり、女性にも企業の総合職（幹部候補生）としての門戸が開かれた時期に社会人となり、ビジネスの世界でのダイバーシティ進化の歴史を歩んできました。今でも女性がマイノリティであることに代わりはありませんし、女性の活躍に多くの課題が残されていることも事実です。それでも10年単位で振り返ると社会は着実に進化していることは明白です。昭和の時代を振り返ると、今でいうバワハラやセクハラはむしろ常習の世界でしたし、オフィス、乗り物、駅、あらゆるところには灰皿があるのがあたりまえでした。長いこと生きてみると、常識といわれていることや自分が縛られている



シンポジウム2025の企画・実施・報告

Wood Deck

NPO法人ウッドデッキシンポジウム 2025

202510.31FRI

13:00-16:10 参加費無料(要事前申込)

人と動物から読み解く環境と健康の未来:One Healthの実装に向けて

ヒト・動物・環境の健康を統合的に考える「One Health」アプローチは、理念から「実践」のフェーズへと進化しています。本シンポジウムでは、環境汚染と健康リスクの「つながり」を、異分野融合的な知見で解きほぐし、「社会実装」へつなげるために議論します。一方で、地域からグローバルへ、動物から人へ、データから行動へ…「未来の健康な社会」に向け新たな視点を探ります。

司会 石塚真由美 (北海道大学獣医学研究院 教授)

OPENING

13:00~13:10

開会挨拶 渡辺美代子 (NPO 法人ウッドデッキ 代表理事)

13:10~13:40

基調講演: 希少疾患が教えるエコヘルスの発展
野生動物を通じた環境リスクの可視化と対応

●斎藤康輔 (法政大学獣医学研究所 代表/獣医師)

13:40~14:00

講演: 小さな施設から大きな物語へ
寄与主体の水和サステナブル活動でつなぐ
Planetary HealthとOne Health

●山内太郎 (北海道大学保健科学研究科 教授)

14:00~14:20

講演: 環境汚染がつくる健康格差
グローバルヘルスにおけるOne Healthの課題と展望

●堀田佳代子 (Boston University Assistant Professor)

14:20~14:30 休憩

14:30~14:50

講演: アフリカから考えるOne Health
環境汚染と地域実装型対策のアプローチ

●中山翔太 (北海道大学獣医学研究院 准教授)

14:50~15:05

講演: 技術開発から見えるヒトの価値

●寺本華奈江 (島津製作所MSビジネスユニット 副ビジネスユニット長)

15:05~15:20

講演: 今の海に「持続可能な資源」はないーグリーンヘルスという健康の発展と変革

●安田 仁奈 (東京大学農学生命科学研究科 教授)

15:20~15:25 休憩

PANEL DISCUSSION

15:25~16:00

モデレーター 石塚真由美、井関祥子 (東京科学大学医学部獣医学研究科 教授)

パネリスト 各講演者

CLOSING

16:00~16:10

総括・閉会挨拶

●山極謙一 (総合地球環境学研究所 所長、NPOウッドデッキ 理事)

会場 北海道大学大学院
獣医学研究院 講義棟・講堂
+ Zoomウェビナー (ハイブリッド開催)

主催 NPO 法人ウッドデッキ

共催 北海道大学
大学院 獣医学研究院

申込 参加申し込みフォーム
参加登録はこちらから
<https://forms.gle/VnecWoYDfsJF2UUS9>

企画と準備

第4回のシンポジウム

2025/10/31 午後

北海道大学獣医学研究院と共催

北海道大学獣医学研究院講堂で開催 を決定し実施

シンポジウムディレクター・マネージャーのオンライン会議

プログラム、ポスター、スポンサー動画の検討 (2025/8/2)

会場と当日スタッフについて議論 (2025/8/26)

参加者募集と会場設営、同時通訳について議論 (2025/9/23)

登壇者の確認、オンライン参加方法、学生参加促進策を議論 (2025/10/15)

メールにて随時打合せ

11



第4回シンポジウムをハイブリッド形式にて開催

参加は現地45名、オンライン103名、合計148名

非日本語話者のためのAI技術を用いたリアルタイム翻訳英語字幕の表示

人と動物、そして環境の健康を統合的に考える「One Health」理念の実装を目指し、環境汚染や開発と健康リスクの関係を多面的に議論

基調講演 斎藤慶輔（釧路湿原野生生物保護センター猛禽類医学研究所代表）

野生鳥類、とくにオジロワシの救護や治療の現場に基づく事例をもとに、人間社会との共生のあり方を紹介

風力発電がエコシステムの一部として推進されている一方で、風力発電における風車と大型猛禽類との衝突が発生しており、死亡個体の分布データをもとに、鳥が風車を危険物として認識できていない可能性が説明、さらに、垂直軸型マグナス風車と呼ばれる鳥類への影響を軽減した風車の開発事例を紹介





講演者及びパネリスト

山内太郎 地域実践からOne HealthとPlanetary Healthの関係性

塩田佳代子 家畜や環境と人との関係を通し国際的な衛生課題

中山翔太 アフリカ・ザンビアの鉱山地帯の鉛汚染と健康被害の実態

寺本華奈江 微生物同定技術の背景から見える「人の都合」

安田仁奈 「海の健康」から人間活動と自然回復の相互作用

パネル討論

「現状の可視化」をめぐる意見交換、可視化による課題発見の一方で、行動変容を促すには受け手の理解が不可欠との指摘

総括 山極壽一

データモニタリングの重要性を指摘、また、科学者がどれだけエビデンスを示しても、ナラティブ（物語）がなければ行動変容につながらないと述べ、科学と社会をつなぐ語りの必要性を強調

全体として

人と動物と環境の関係を多面的に議論、One Health 実現に向けた学際的な連携の可能性を提示、科学と社会が協働して新たな健康観を構築する必要性を共有

ホームページでの報告

NPO 法人ウッドデッキ 第4回シンポジウム報告書

NPO 法人ウッドデッキ第四回シンポジウム「人と動物から読み解く環境と健康の未来：One Healthの実装に向けて ― 環境汚染／開発と健康リスクをつなぐトランスディシプリナリーな視点 ―」は、2025年10月31日に北海道大学獣医学研究院講堂で、Zoom Webinarを併用したハイブリッド形式により開催された。主催はNPO 法人ウッドデッキ、共催は北海道大学獣医学研究院であり、現地参加者が45名、オンライン参加者が103名、合わせて148名の参加者が集った。また、非日本語話者のための人工知能技術を用いたリアルタイム翻訳技術を用いた英語字幕の表示もあり、多様な参加者を受け入れる体制を整えた。本シンポジウムは、人と動物、そして環境の健康を統合的に考える「One Health」理念の実装を目指し、環境汚染や開発と健康リスクの関係を多面的に議論する場として行われた。

開会にあたり、NPO 法人ウッドデッキ代表理事の渡辺美代子氏より挨拶があった。渡辺氏は、ウッドデッキ設立の経緯と、コロナ禍を経た現在において「できる限り対面で議論の場を設けたい」という思いを述べた。人と人との関わりが研究や社会活動の根幹であることを強調し、シンポジウムの開催趣旨



神奈川新聞に紹介記事

横浜のNPO法人「ウッドデッキ」、北海道大学でシンポジウムを共催

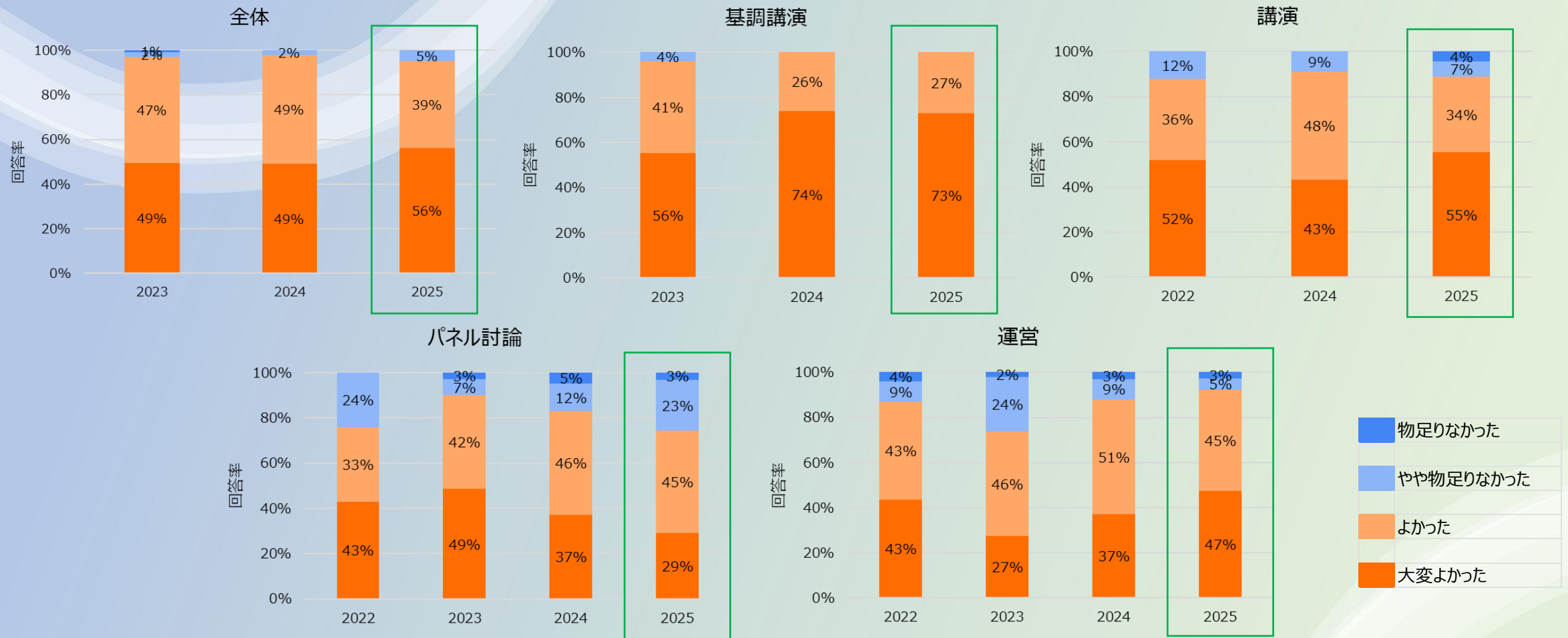
環境保護 健康 シンポジウム

社会 | 神奈川新聞 | 2025年11月1日(土) 12:00



人類と動物と環境の健康を総合的に守る取り組み「One Health（ワンヘルス）」をテーマとしたシンポジウムが31日、北海道大（札幌市）で開かれた。半導体研究が専門の渡辺美代子氏（横浜市栄区在住、元日本学術会議副会長、日本大業務執行

シンポジウム参加者アンケート結果（過去からの推移）



- ・全体、基調講演、講演、運営はこれまでに最も高い評価
- ・パネル討論は人数が多く、十分議論が深まらなかった

ウッドデッキ×立命館慶祥中学校・高等学校 中高生との哲学対話

11/1（土）に北海道江別市の立命館慶祥中学校・高等学校で**中高生との対話会を開催**

午前の部：中学生との対話会

参加者：中学3年生180名、教員、WDメンバー10名

参加者が一堂に会し開会式、その後6つの教室に分かれ、各室でWDメンバーによる講話と対話

WDメンバーの専門領域に基づく「キーワード」を3つ掲げ、それに関心をもつ生徒が自らグループを選択、生徒とWDメンバーが直接対話し、自由な質疑応答を展開

想像以上に積極的に質問をする生徒がいる反面、自信のなさから声が小さくなってしまふ生徒も多く、初対面での対話にまだ慣れておらず、緊張が強く出る時期でもあり、丁寧なアイスブレイクの必要性が浮き彫りに



午後の部：高校生との対話会

参加者：高校2年生約40名、教員、WDメンバー10名

開会式の後、8つのグループに分かれて自由な対話

高校生から、大学進学やキャリア選択に関する踏み込んだ質問が多く、同級生の本音を初めて知り互いに驚く場面も、将来への真剣な姿勢と「選択を誤ってはいけない」というプレッシャーの双方が散見

中学3年生から高校2年生へとわずか2年の差で、表現力や論理的思考の成熟度が大きく変わることを目の当たりに、身体だけでなく心の成長が著しい時期であることを再認識、この多感な時期に多様な大人と接し対話することの意義は非常に大きいと実感



若手科学者のためのオーラルヒストリーデジタルアーカイブ ～次世代に残すメッセージ～

2025年8月26日(火) 10:00-15:00

東京大学農学部弥生講堂アネックス研究講義棟にて
2名のインタビューを実施

誰も経験したことのない冒険を楽しむ権威ある科学者に

- 1) 生い立ち
- 2) キャリアにおけるステージ変化の受け止め
- 3) 若手へのメッセージ

についてインタビューを行い、映像資料を制作

従来のアカデミアでは継承することが困難であった先人の
知の世代間伝承を推進

若手科学者が自分の人生にどのように向き合い、
未来を切り拓いていくかの洞察を得る契機とする狙い



2024年度と2025年度撮影動画をHPで公開

若手科学者のためのオーラルヒストリーデジタルアーカイブ

～次世代に残すメッセージ～

山極 寿一 × WIECZOREK Iris



若手科学者のためのオーラルヒストリーデジタルアーカイブ

～次世代に残すメッセージ～

濱口 道成 × 秋山 咲恵

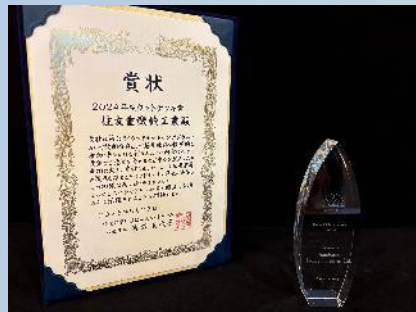


ウッドデッキ賞授賞

ウッドデッキに貢献した者にウッドデッキ賞（Wood Deck Award）を授与
2025年5月22日（木） 16:30-17:00に日本大学会館で総会の一環として表彰式を実施

2024年度ウッドデッキ賞 住友重機械工業殿

受賞理由:第3回ウッドデッキシンポジウムにおいて賛助会員として若手社員へ積極的な参加呼びかけを行うとともに、内容に対する貴重なご意見を寄せるなど本シンポジウムの成功に大きく貢献、これらは産業界の視点を踏まえたウッドデッキの発展に寄与



企業の協賛・エコシステム構築



「科学の力で未来をもっと豊かに」のビジョンを掲げる日本電子株式会社に設立当初から協賛いただいております

2024年度より、「一流を、世界へ。」のオモイを表明するに住友重機械工業株式会社に協賛いただきました



今後協賛いただく企業を選定し、ウッドデッキの活動を広報し、協賛を募る予定です

規程類の策定

1 つの規程と別表を策定

規程第六号 旅費規程

旅費規程別表

第10回理事会（2025/10/31）にて

上記規程を了承

第11回理事会（2025/11/19～11/26）

メール審議にて 上記別表を了承

特定非営利活動法人ウッドデッキ 旅費規程

規程第 6 号

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条

この規程は、特定非営利活動法人ウッドデッキ（以下「当法人」という。）が業務を遂行するために出張等を行う者に対し、合理的かつ適正な旅費の支給基準を定め、旅費の透明性および公正性を確保することを目的とする。

（適用範囲）

第 2 条

本規程は、本法人理事・監事・会員、その他本法人の業務のために出張を命じられた者（以下「出張者」という。）に適用する。

（原則）

第 3 条

1. 出張者に対する旅費は、経済的かつ妥当な実費を基準とする。
2. 出張は、業務の必要性に基づき、代表理事の承認を得て行うものとする。
3. 出張経費の支出は、公共交通機関等の合理的かつ通常の経路・方法によるものを原則とし、やむを得ない事情がある場合は代表理事の承認を得て例外を認める。

第 2 章 旅費の構成および支給基準

（旅費の構成）

第 4 条

旅費は、交通費および宿泊費をもって構成する。なお、日当は支給しない。

（交通費）

第 5 条

1. 交通費は、実際に要した経費を支給する。
2. 公共交通機関（鉄道、バス等）の利用にあたっては、経済的かつ適正な経路および方法による実費を支給し、領収書の提出は不要とする。
3. 航空機およびタクシーを利用する場合は、原則として事前に代表理事の承認を得るものとし、領収書を提出すること。
4. 自家用車の使用を認める場合は、ガソリン代・高速料金等を距離または実費により支給する。この場合、代表理事の承認を要する。
5. 出張に私的経路を含む場合は、私的部分を除いた合理的経費を算定し、按分の上で支給する。

（宿泊費）

第 6 条

1. 宿泊費は、実費支給とし、別表に定める上限額を超えない範囲で支給する。
2. 宿泊先は、業務遂行に支障のない範囲で経済的かつ適当な施設を選定すること。
3. 学会指定ホテル、開催地の滞給逼迫、深夜到着等のやむを得ない事情により上限超過

旅費規程別表（第6条第1項関係）

宿泊費基準額（一夜につき）

国家公務員指定職員等を参考に2025/10札幌宿泊を基準に設定

都道府県	指定職員等A	今回札幌 ¥23,000基準B	Bを千円単位 四捨五入
北海道	18,000	23,000	23,000
青森県	15,000	19,167	19,000
岩手県	13,000	16,611	17,000
宮城県	14,000	17,889	18,000
秋田県	15,000	19,167	19,000
山形県	14,000	17,889	18,000
福島県	11,000	14,056	14,000
茨城県	15,000	19,167	19,000
栃木県	14,000	17,889	18,000
群馬県	14,000	17,889	18,000
埼玉県	27,000	34,501	35,000
千葉県	24,000	30,667	31,000
東京都	27,000	34,501	35,000
神奈川県	22,000	28,112	28,000
新潟県	22,000	28,112	28,000
富山県	15,000	19,167	19,000
石川県	13,000	16,611	17,000
福井県	14,000	17,889	18,000
山梨県	17,000	21,723	22,000
長野県	15,000	19,167	19,000
岐阜県	18,000	23,000	23,000
静岡県	13,000	16,611	17,000
愛知県	15,000	19,167	19,000
三重県	13,000	16,611	17,000
滋賀県	15,000	19,167	19,000
京都府	27,000	34,501	35,000
大阪府	18,000	23,000	23,000
兵庫県	17,000	21,723	22,000
奈良県	15,000	19,167	19,000
和歌山県	15,000	19,167	19,000
鳥取県	11,000	14,056	14,000
島根県	13,000	16,611	17,000

4. 会議報告

総会

開催日時：2025/5/22（木）15:00－17:00

会場：日本大学会館202号室 およびzoomによるハイブリッド

出席：19名（うち会場参加：8名、zoom参加：7名、委任状：4名）＋オブザーバー2名

議事および議決結果：理事・監事の選任、2024年度活動報告と2025年度活動計画等

理事会

第10回 開催日時：2025/10/31（金）16:00－17:00 会場：北海道大学獣医学研究院 西会議室

出席：6名（うち実参加：4名、委任状：2名）＋事務局

議事：シンポジウム2025及び立命館慶祥中学校・高等学校対話会の確認、旅費規程の承認等

第11回 開催日時：2025/11/19（水）－11/26（水） 方法：メール審議

出席：5名＋事務局

議事：旅費規程別表の承認、新規入会希望者の入会承認

シンポジウム企画準備会

オンライン準備会

第1回 開催日時：2025/8/2（土）16:00-17:00

第2回 開催日時：2025/8/26（火）15:00-16:00

第3回 開催日時：2025/9/23（火・祝）13:00-14:30

第4回 開催日時：2025/10/19（日）10:00-11:00

出席：3-4名

内容：シンポジウムプログラムの検討・決定と会場・設営・進行について

※詳細は11ページ

中高生との哲学対話オンライン準備会

随時メールにて議論

内容：対話会プログラムの検討・決定と参加者募集について

5. 収支報告

					(単位:円)	
		第4期 (2025年度)			(参考) 第3期 (2024年度)	前年度増加 (FY25－FY24 年)
収益	寄付金			2,000,000	2,000,000	0
	利息			1,275	546	729
	雑収益			1,285	300,516	△ 299,231
	合計			2,002,560	2,301,062	△ 298,502
費用		(事業費)	(管理費)			0
	人件費	0	0	0	0	0
	業務委託費	892,100	0	892,100	1,139,077	△ 246,977
	諸謝金	22,274	0	22,274	0	22,274
	印刷製本費	63,877	24,833	88,710	109,106	△ 20,396
	会議費	62,964	36,300	99,264	119,000	△ 19,736
	旅費交通費	586,408	76,000	662,408	329,381	333,027
	広告宣伝費	10,065	10,065	20,130	13,860	6,270
	接待交際費	11,615	0	11,615	315,190	△ 303,575
	通信運搬費	0	46,750	46,750	44,590	2,160
	消耗品費	0	23,760	23,760	26,290	△ 2,530
	支払手数料	4,884	1,650	6,534	7,270	△ 736
	合計	1,654,187	219,358	1,873,545	2,103,764	△ 230,219
当期収支				129,015	197,298	△ 68,283
前期繰越金				581,066	383,768	197,298
次期繰越正味財産額				710,081	581,066	129,015



特定非営利活動法人 ウッドデッキ
〒247-0008 横浜市栄区本郷台2-25-11
email: secretariat.wd@gmail.com

NPO ウッドデッキ

